

理科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	3年	4年	5年	6年
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験の視点を示すことによって、細かいところまでじっくり観察して、特徴を調べたり正しく記録したりできる児童が多いです。 ○観察や実験を通して確かめたことを知識として定着させることに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値を上回っています。 ○植物の育ち方についてよく理解しています。 ○「磁石の性質」について正答率が下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値を下回っています。 ○特に1年間の植物の成長「冬のヘチマとサクラのようすを理解している」についての理解について正答率が大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値を下回っています。 ○「人のたんじょう」で子どもは、受精してから約38週で生まれることについて、よく理解しています。 ○「電流のはたらき」で、電磁石と棒磁石に共通する特徴について正答率が下がっています。
思考力, 判断力, 表現力	<ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験の結果から、似ていることや異なっていることを発見することができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に目標値を上回っています。 ○「磁石の性質」では、磁石の性質を理解し、実験の結果から磁石の極を判断する問題で正答率が下がっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値を下回っています。 ○「自然の中の水」で水の蒸発が起こりやすい条件をよく理解しています。 ○「水のすがた」ペットボトル内の水を凍らせたときにペットボトルが膨れて変形した理由を記述する問題で正答率が下がっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値を下回っています。 ○「ふりこのきまり」でふりこの周期についての対照実験の条件を制御する問題はよくできています。 ○「流れる水のはたらき」で川原の石の写真から観察された川原の場所を推測することができていません。
学びに向かう力, 人間性	<ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験など体験的な学習に対して、意欲的に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値を上回っています。 ○観察や実験など体験的な学習に対して、意欲的に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値を下回っています。学びに向かう力が低いと、正答率も下がる傾向にあります。 ○実験や観察など体験的な学習に対して、意欲的に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値を下回っています。学びに向かう力が低いと、正答率も下がる傾向にあります。

2 課題と改善策、検証方法

	3年	4年	5年	6年
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験から自然現象の相違点や共通点をしっかりと捉え、知識・理解の定着を図る必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習したことを知識として定着させることに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察したことが知識として定着していないことがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に知識の定着を図る必要があります。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○予想や仮説を立て、観察・実験できるようにします。 ○実験結果から考えたことや結果をまとめる時間を確保し、理解できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の学習を振り返ったり、学習したことを自分の言葉でまとめたりする時間を確保することで、理解が定着できるようにします。 ○単元の終わりには理解が定着しているかどうか、児童自身が確かめられるようにプリントを活用する等工夫します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元や授業の導入にICTなどを活用し、主体的に学習に取り組めるよう工夫していきます。 ○実験結果から考えたことや結果をまとめる時間を確保します。十分に思考・表現することで、理解できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の学習を振り返り、知識の定着を図ります。 ○単元の終わりには理解が定着しているかどうか、児童自身が確かめられるようにプリントを活用する等工夫します。
検証方法	<ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験の結果から考察やまとめを書くことができるようになったか、ノートやプリントで見取っていきます。 ○プリントやワークテストをもとに知識が定着しているか確認します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやプリント、ワークテストをもとに、知識が確実に定着しているか確認します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに確認プリントを実施し、知識の定着を図ります。 ○実験結果から考察やまとめを書くことができるようになったか、ノートを回収・添削し、変化を見取っていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートを回収・添削し、細かく見取っていきます。 ○単元ごとに確認プリントを実施し、知識が定着しているか確認します。